

ようこそファースト・ビジネスクラスへ！

極上の空の旅を演出する、 JALのプレミアム旅客戦略とは。

虹橋 - 羽田線にファーストクラスが誕生！

2007年10月28日、JL8877便は、羽田空港を飛び立ち、上海・虹橋空港へ進路をとった。このフライトより、JALは同路線では唯一となるファーストクラスサービスを導入したのである。

JALは現在、中国線をはじめ国際線・国内線で、ファーストクラス、エグゼクティブ（ビジネス）クラスのサービス強化に向けた“プレミアム旅客戦略”を展開している。その意図を北京支店長の経験をもつ大西誠執行役員は次のように語る。

「当社のプレミアム（ファーストおよびエグゼクティブ）クラスのサービスは、世界のトップクラスにあると自負しています。そのサービスに磨きをかけ、超一流なものにしたいと、成田空港第2ターミナルのリニューアルを機に、様々なサービス強化に取り組んできました。座席に加え例えば、機内での食事、飲み物、客室乗務員の接客サービスが、他の航空会社とどこが違うのか、一度体験していただければ、私どものサービスの素晴らしさがお解かりいただけるはずです」

ではJALが自信をもって提供するプレミアム旅客サービスとはどのようなものなのか、誌上でご紹介していこう。



日本への自主運航便週 182 便すべてに エグゼクティブクラスを導入。

JAL中国線は、自主運行便で中国の10都市へ182便、コードシェア便を加えると13都市へ、日中間最大規模の週297便運航しており、搭乗旅客数は年間約290万人におよぶ。中国線の特徴はビジネス客が多く、リピート率が高いこと。そのため全線にエグゼクティブクラスを導入し、仕事の疲れを癒すフラットなリクライニングシートの導入や、毎週乗っても同じ食事メニューに当たらないよう、各種の工夫が施されている。

各便ともにプレミアムシートが十分に確保されており、例えば羽田 - 虹橋線で運航中のボーイング747-400型（ジャンボ）機の場合、ファーストクラス12席、エグゼクティブクラス69席が用意されている。また、中国線で使用率の高い中型機767型では30席がエグゼクティブクラスに当てられるなど、プレミアム旅客重視の方針が打ち出されている。



ラグジュアリーな旅は ラウンジサービスから始まる。

JALで行くプレミアムな旅は出発前から始まっている。成田空港第2ターミナルのリニューアルにともない、空港でのサービスが一段とグレードアップした。成田空港に到着すると、人に優しいストレスフリーをめざしたファーストクラス、エグゼクティブクラスの専用カウンターが待ち受けている。上質感のある木目調の落ち着いたファーストクラスカウンターでは、混雑する時間帯でもスムーズな搭乗手続きができ、そのままファスト（迅速な）セキュリティレーンへ移動し、最短距離で出国審査が受けられる。一方、エグゼクティブクラスカウンターでは、自動チェックイン機が多数設置されており、短時間でチェックインが可能だ。

出国手続きが済むと、その正面に「JAL ファーストクラスラウンジ」と「JAL サクララウンジ」が待ち受けている。なかに入ると、先ほどまでの喧騒が嘘のように静かだ。より広く開放的になったラウンジ内に設置されたダイニングコーナーでは、暖かい料理や銘柄米の炊き立てご飯、味噌汁、パンやスープが用意されている。また、バーカウンターにはワインやウイスキー、焼酎、ソフトドリンクが揃っており、出発前のひと時をくつろいだ雰囲気ですごすことができる。また、シャワールームの利用やマッサージサービスが受けられるほか、ラウンジ全域をカバーした無線LANやビジネスコーナーに設置されたパソコンを利用して、貴重な時間を有効活用することができる。



プレミアムなシートで 最上級のくつろぎを。

虹橋-羽田線のファーストクラスに乗り込み、ゆったりとシートに腰を下ろす。このシートは「JAL SKYSLEEPER」と呼ばれるもので、フルフラットの位置まで自由にリクライニング調整が可能だ。大型のパーテーションがプライバシーを守ってくれるので、周りを気にせず横になることができる。それを見ていた客室乗務員が、羽毛布団と羽毛枕をさす。さすが日本ののは、きめ細かな心ずる。

JALはファーストクラス改革を次々と行っている。例えばシートでは、オーガニックデザインを採用した、「JAL NEW SKYSLEEPER SOLO」が評判を

呼んでいる。イギリスの著名なデザイナー、ロス・ラブグローブ氏が設計し、世界有数のレザーメーカー、イタリア ポルトロナ・フラウ社製の皮革を使用したシートは、フラット時には幅66cm・長さ185cmとなり、横たえた体を優しく包んでくれる。しかもシート腰部にはマッサージ機能が内蔵されており、長距離の空の旅による腰の張りを、優しくほぐしてくれるという親切設計だ。

「JAL NEW SKYSLEEPER SOLO」は東京発の欧米線6路線※で採用されているので、中国発東京経由でアメリカ・ヨーロッパへ出かける際には、ぜひJAL便への搭乗をお勧めする。きっと極上の夢が見られるに違いない。

※導入路線はいずれも東京発で、ロンドン線、パリ線、フランクフルト線、ニューヨーク線、シカゴ線、ロスアンゼルス線の6路線。

NEW SKYSLEEPER SOLO



幻の最高級シャンパンで 心を解き放つ。

地上の喧騒を忘れ、これからの旅に思いをはせるとき、馥郁たる香りのワインが欲しくなる。羽田 - 虹橋線のファーストクラスには、日本を代表するワインジャーナリスト有坂芙美子氏が厳選した格付ワインをはじめ世界の一流ワインが揃っている。また、日本酒ファンには「十四代」「磯自慢」「醸し人九平次」といった、入手困難な銘柄が味わえるのもうれしい。そして、マニア垂涎の芋焼酎「森伊蔵」までが揃っているとは…。名だたる世界の銘酒に親しんできたお歴々も、きっと満足できるに違いない。

世界のエアラインの中でも、JALのワインリストは定評がある。最近も世界のワインジャーナリストを驚かせるニュースが、地球を駆け巡った。希少価値の高い「幻のシャンパン」生産で知られるフランスのサロン社とJALが提携。昨年12月から期間限定で、東京 - ロンドン線、パリ線、ニューヨーク線のファーストクラスで、1997年ビンテージシャンパンがサーブされたのだ。

サロン社のシャンパンは、ブドウの当たり年にのみ、最上質のシャルドネ種の、しかも一番搾り果汁だけを醸造し、10年近く熟成させたこだわりの逸品。JALはサロン社のシャンパンを機内で提供する、世界唯一のエアラインとなったのである。

こうしたJALの取り組みは高く評価され、2004年には機内ワインのコンペティション「CELLARS IN THE SKY」で、4部門受賞という栄誉に輝いた。世界の銘酒を心行くまで

味わえる満足感。JALプレミアムクラスならではの贅沢と伝えよう。



フランス・サロン社の
幻のシャンパン

目で舌で一流シェフの味を 楽しむ。

日本料理は季節感を味わうものと言われる。最近では西洋料理も日本料理の影響を受けて、季節の素材を生かしたメニューが増えている。JALのプレミアムクラスでは、和食は京都老舗料理店の若主人たちの集まりである「京都芽生会」監修による献立が、洋食は一流ホテルやレストランのシェフで組織された「日本エスコフィエ協会」監修によるメニューが供される。和食にするか洋食にするか、この迷いがまた楽しい。

京都料理の「芽生会」には、「瓢亭」「たん熊北店」「わた亀」「魚三楼」といった老舗料亭が名を連ねている。厳選された素材を生かした和風ステーキや松茸の土瓶蒸、ふぐ会席などといった料理が、趣向を凝らした器に盛られて供される様はまさに壮観。しかも、ごはんは魚沼産コシヒカリを機内で炊き上げ、熱々が出てくるこだわりようだ。

一方、洋食では、魚コースに塩分・脂肪分を控え、栄養バランスに気を配ったヘルシーメニューが用意されている。





これもうれしい配慮だ。

また、ファーストクラスでは、機内食の事前予約を受け付けている。和食・洋食の3～4

種類のメニューから、希望する献立をリクエストできるのだ。機内で自分専用の料理に舌鼓を打つのも、ファーストクラスならではの特権である。

日本の旅も ファーストクラスの時代へ。

日本の国内旅行もファーストクラスで。そんなプレミアム旅客の声に応じて、昨年12月、JALは羽田 - 伊丹線に、日本初の国内線ファーストクラスサービスを導入した。今後、羽田 - 福岡線、羽田 - 札幌線へと順次拡大していく計画だ。

国内線ファーストクラスの座席は、機内前方に2席ずつ14席がゆったりと配置されている。前後の間隔は130cmと1席当たりの専有スペースは国内最大。シートは国内線ファーストクラス用に開発されたもので、通常時は27度だが、リクライニング時には最大42度まで傾斜できるなど、満ち足りた空の旅が堪能できる設計となっている。

そして最大の話は、著名なレストランガイド「ミシュラン」東京版で星を獲得した、和食の「分とく山」「なだ万」、イタ

リア料理の「アロマプレスカ」、フランス料理の「ラリアンス」といった名店と提携した料理が、10日替わりで提供されることだ。提携メニューは夕食のみだが、どの時間帯に乗っても、それに劣らぬ吟味された食事、軽食、茶菓、飲み物のサービスが受けられる。そのため、ファーストクラスの12月の利用率は90%を超えており、早くも好評を得ている。

日本へ、日本から世界へ、 大きく広がる JAL の翼。

JALは昨年4月、世界を代表するエアラインが集まったアライアンス組織、ワン・ワールドへ正式加盟した。これにより、世界の5大陸、150カ国、約700都市へと、ネットワークが拡大した。

ワン・ワールド加盟によるメリットは、世界の一流航空会社10社のサービスが受けられることだ。例えば、世界約400カ所で開催航空会社のラウンジ使用ができる。乗継便の搭乗券を出発地で受け取り、乗継時もスムーズなチェックインができ、預けた荷物は最終到着地で受け取れる。国際線eチケットの利用が可能。マイル獲得のチャンスが飛躍的に拡大するなどが挙げられる。これは搭乗機会の多いプレミアム旅客にとっては、大きなメリットと言えるだろう。

最後に、大西執行役員は、「中国で指導的な立場にある新日本財経の読者の皆さまへ」と、次のような熱いメッセージを寄せてくれた。

「今年はオリンピックイヤーでもあり、日中間の往来はさらに拡大するに違いありません。JALのワン・ワールドへの加盟で、中国から日本へ、日本から世界5大陸への旅がさらに便利になりました。こうした機会を捉え、JALはプレミアム旅客戦略のさらなるグレードアップをめざしています。中国の皆さまのご利用を心よりお待ちしております」